

はじめに

富士通では、当社の歴史を残すため、『富士通アーカイブズ』という活動を行っております。この活動の一環として皆様に富士通についてもっと知っていただきたいと考え、隔号で富士通についてのあれこれをご紹介させていただきます。

第二回目は富士通の始まりを、初代社長 吉村萬治郎の言葉とともにご紹介いたします。

1. 富士通信機製造株式会社誕生の年（1935年）

古河電工とドイツのSiemens社との合弁会社として設立され、通信機器の国産化をおしすすめた富士電機は、やがて通信機事業を分離・独立させることとし、1935年6月20日、富士通信機製造株式会社（資本金300万円、社員700人）を設立します。これが今日の富士通です。

1935年（昭和10年）は、日産自動車で国産第1号車ダットサンが製造され、豊田自動織機製作所（現トヨタ自動車）からは国産トラック第1号G1型の販売が開始されるなど、日本の製造業が発展していく時でした。他にも、この年に日本で生まれたものには、大阪野球倶楽部（現在の阪神タイガース）、乳酸菌飲料のヤクルト、そして、今年豊洲に移転する築地の東京都卸売市場などがあり、いずれも20世紀から21世紀へと時代を超えて親しまれてきています。

2. 慣れた仕事に油断なく

富士通信機製造（株）の初代社長は、富士電機社長の吉村萬治郎が兼務しました。会社設立の際、吉村社長は全従業員を集め次のような話をしました。

- 一、慣れた仕事に油断なく、特に要所への注意を怠らざる事
- 二、顧客との間に面倒を生じたる場合には、顧客の心を心として速かに対策を樹（た）て円満なる解決を期する事
- 三、研究設備、陣容の充実と共に研究心の旺盛を期する事

お客様との信頼を大切にしながら、通信機器の分野で他社の技術のみに依存しないものづくりを追い求め、しかも、より低価格・高品質の製品を開発する・・・これが創業当初から目指した姿勢でした。創業から今年で81年。時代は大きく変わりましたが、この姿勢を変わることなく受け継いでいます。



創業時の富士電機川崎工場内の社屋



創業当時の主要製品
H形交換機の組立風景

3. 武蔵中原に新工場を建設

富士通信機は、国内経済の好転や電話需要の増大により多量の注文を受け、順調なスタートを切りました。多量の注文に応えていくには、富士電機川崎工場内の社屋ではすぐに手狭になり、新工場の建設が必要になりました。

新工場敷地の選定に当たっては、塩分を含む風の方向、湿気、地形・地盤の状況など17項目におよぶ選定要項に基づき、東京、川崎近郊の候補地数カ所を数カ月わたって調査を行いました。なかでも、錆の発生に関する調査を特に重視し、候補地にテストピースを置いて錆発生試験を行った結果、東横線以北が非常に良好であることがわかり、南武線武蔵中原駅前の用地に新工場を建設しました。

工場建設に当たっては、吉村社長から「外観が工場工場せざる建物とする事」「構内は公園式にする事」などの環境に配慮した清潔で近代的な工場とする基本方針が示され、その方針に基づき、1938年に、前庭に池を配置した当時としては画期的な工場が完成しました。これが富士通の本店である川崎工場です。



敷地調査に使用したテストピース



1938年に竣工した川崎工場

4. インダストリアルパーク

川崎工場建設時の基本方針は庭園工場(インダストリアルパーク)という考え方として現在も受け継がれ、沼津工場などもこの理念に沿い広大な緑に囲まれた工場となっています。

この富士通沼津工場には、歴史に触れる施設として、『富士通アーカイブズ』の展示エリアやコンピュータの発展に寄与した池田敏雄を紹介する『池田記念室』があります。是非、ご見学にお越しください。

富士通はこれからもみなさまとともに成長し、社会的使命を果たして参ります。ご支援、ご愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます



富士通アーカイブズ展示エリア



池田記念室
世界最古級の稼動する
コンピュータFACOM128B

『富士通アーカイブズ』の見学をご希望される場合は、営業までお問い合わせください。